

上海モーターショー2019

## デンソー・プレスカンファレンス

株式会社デンソー 経営役員  
兼 電装(中国)投資有限公司 董事長  
梶田 宜孝

皆さま、こんにちは。

本日はお忙しい中、デンソーブースにお越しいただき、ありがとうございます。

私は、電装中国投資有限公司 董事長の梶田宜孝です。

中華人民共和国が建国された1949年、同じ年にトヨタ自動車から分離・独立して、デンソーが誕生しました。創業から今年で70年、日々進化している中国には足元にも及びませんが、デンソーでは創業時1,500名だった社員が、今や世界約220カ所に17万人もの仲間が増え、ここ中国においても拠点35カ所に17,000人の仲間がいます。

自動車業界は今、「100年に一度の変革期」といわれる激動の中にあります。産業の枠組みが大きく変わり、私は「アジアの先進が世界の先進となる時代が来る」と思っています。そして間違いなく、中国がリーダーシップを発揮していきます。

この中国において、デンソーが貢献できるよう、私は17,000人の仲間と共に、中国の進化に劣らない「スピード感」「スケール感」「スマート感」を持って事業を展開していきたいと思えます。

さて、「100年に一度の変革期」にある自動車業界は、CASEによる技術革新の中で、自動車の概念やモビリティの捉え方に大きな変化が生じています。この大きな変化に対応するため、多様な顧客ニーズや変化する市場状況にタイムリーに応え、その地域に最適な製品を競争力ある価格で開発設計して提供しなければなりません。

当社は「研究開発」「モノづくり」「ヒトづくり」が相互に支え合うことで社会へ新しい価値を提供する原動力につながる、と考えています。例えば当社は世界7地域、日本、アメリカ、ドイツ、タイ、インド、ブラジル、そして中国のテクニカルセンターをコアに、地域開発体制を強化しています。中国ではここ上海にテクニカルセンターを設置しています。

加えて、世界各地域におけるイノベーションの兆しをいち早く予測し、検証するため、国内外にサテライトR&D機能を設置し、グローバルな先端R&D体制を強化していきます。技術革新が非常に激しい中、当社の持続的成長のためには売上収益の9%程度の研究開発費が必要と考えており、今後も維持していきます。

一方、中国では、1987年に北京にて駐在員事務所を設立し、その後1994年には煙台に最初の合弁事業拠点を設立するなど、32年間、自動車産業の発展に微力ながら貢献してまいりました。おかげさまで、お客様そして地域の皆さまから、少しずつ認められる存在へと成長しています。そして、未来に向けては「中国になくはならない会社になる」べく、先進技術と競争力ある製品を積極的に投入することで、世界一のスピードと圧倒的なスケールの中国市場とともに、力強く成長していきたいと考えています。

そのために取り組んでいる3点を紹介いたします。

まず1点目は、中国の社会課題に向き合い、理想を具現化することです。例えば深刻な大気汚染問題に対し、体にやさしい車室空間・快適なドライビングの実現を目指して、オートエアコンPM2.5除去システムを開発しました。トヨタ様のカローラ/レビンのフルモデルチェンジに合わせ、世界で初めて搭載いただいています。なお、実際の製品はトヨタ様のブースにて展示いただいています。

2点目は、中国の市場に必要とされる技術・製品にこだわり、スピード感を持ってお客様へ提供することです。中国の会社が持つスピーディーな開発技術や生産のノウハウを真摯に学ぶために、パートナー戦略を推進しています。例えば、昨年12月には武漢光庭信息技术股份有限公司との合弁会社「電装光庭汽車電子有限公司」を設立しました。今後は同社で自動車メーター用ソフトウェアの設計や開発を行います。

3 点目は、地域に愛される企業になる、ということです。デンソーでは、「人材育成」、「交通安全」、「環境」を三本柱として展開しています。「人材育成」では、毎年、「中国大学生方程式汽车大赛」に出場する吉林大学の学生を支援しているほか、上海交通大学にて技術講座を展開しています。「交通安全」では、拠点所在地の小学校向けに交通安全講座、体験活動を展開しています。「環境」では、拠点周辺、公共施設の環境清掃をしています。持続的な事業活動を通して地域貢献活動を積極的に推進し、地域社会の皆さまから評価を頂いています。

これらの取り組みを通じ、新たな顧客・製品・事業分野を切り拓き、2025 年に向け、中国自動車市場の伸びを上回る事業成長を実現してまいります。

さて、ここで上海モーターショー2019 の展示内容を簡単に紹介いたします。

デンソーは、将来のモビリティ社会の実現に向け、「電動化」「先進安全／自動運転」「コネクティッド」に注力しています。中でも「電動化」については、電子部品、回転電機領域を磨き上げ続けている当社の専門性や強みを生かし、インバーターやモータージェネレーターなど幅広い製品ラインナップを持っています。

本日は「安心・安全を実現するための技術」と「環境を守るための技術」という切り口から、紹介いたします。

「安心・安全を実現するための技術」においては、コネクティッド技術などで交通事故削減へ貢献しています。デンソーは、交通事故のない、誰もが安心・安全に移動できるモビリティ社会を目指し、品質と信頼性の高い技術の開発に取り組んでいます。これまで培ってきたセンシング技術に加え、今後は AI・情報技術に磨きをかけることで、自動運転技術の発展にさらに貢献していきます。展示にありますように、例えば交通・環境・移動需要など、都市全体のデータを収集する最新の IoT 技術により、クラウドから安全にモビリティをコントロールすることで、発生原因において多くを占めるドライバーの運転ミスによる交通事故の削減につながると考えています。

「環境を守る技術」においては、デンソーでは CO<sub>2</sub> 削減を目指し、地球にやさしく、より快適に移動できるよう、ハイブリッド車や電気自動車といった電動化車両を実現するコア技術開発に取り組んできました。高効率なエネルギーの回生技術、半導体の集積化と高性能冷却を生かした電駆動技術、エンジン性能を最大限に引き出す燃焼・排ガス浄化技術によって、主要製品の高性能化を実現し、CO<sub>2</sub> の削減に取り組んでまいります。

そして、皆さまの右後方に展示していますのは、プロダクトブランド「ELEXCORE/睿核」です。今回中国において初お披露目となる「ELEXCORE」は、電動化の核を担っていくというデンソーの決意の象徴であり、「電気を最後の一滴まで使い切る」という技術者の熱意をブランドネームや製品デザインに表現しています。

生産体制においては、伸びゆく電動化市場に対応するため、電動化製品の生産を世界の中で最も電動化が進んでいるといわれる中国においても天津で生産を開始しています。これまでハイブリッド車で培ってきた技術の強みで他社を圧倒し、内燃機関も含め全方位で取り組むことで、世界各地の多様なニーズに応じた価値提供による「普及」を目指してまいります。

さて、このたび、アイシン精機と共に駆動モジュールの開発・適合および販売を行う新会社「BluE Nexus」を設立しました。これは、電気自動車の普及に伴ってトランスアスクル、モータージェネレーター、インバーターというキーコンポーネントが一つのパッケージになった駆動モジュールの重要度が増している中、デンソーとアイシン両社の強みを生かした駆動モジュールを作り、世界各地域への幅広い普及を目指して、持続可能な社会の実現に貢献していくためです。

最後になりますが、これからも引き続き、ここ中国においてデンソーが貢献できるよう、私は 17,000 人の仲間と共に「中国になくはならない会社になる」べく尽力してまいります。どうぞご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上